地域に根ざした住環境計画・地域文化の観光活用

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部　生活デザイン学科　　教授　　藤木　庸介
研究分野：建築計画、伝統的居住文化の維持・保全
研究室ＨＰ：　http://www.shc.usp.ac.jp/fujiki/

人々の生活によって培われてきた地域に特有の居住文化は、その土地の気候風土や習俗習慣、あるいは地域産業といった様々な要素との結びつきにより形成されてました。しかし、近年こうした地域に特有の居住文化は急速に失われつつあります。本研究室では、特に地域住民自らによる自律的な観光開発を手段とする事で行う、伝統的居住文化の維持・保全とその活用、並びに地域に根ざした住環境計画について、研究・提案を行っています。

■ 名古屋市緑区有松における山田家住宅の実測調査と再生計画の提案

山田家住宅（図1）は、本研究室の実測調査から、寛政3年の建造を示す棟札（図2）を発見し、有松地区において現存する伝統的建造物の内、最も古い時期の建造である事を明らかにしました。また、当該民家小屋組の独自性に着目し、類似の小屋組が他に確認されない事を指摘しています。こうしたことから、当該民家の維持・保全と持続的利用を目的に、立命館大学平尾研究室、並びに向坊研究室らとの協働により、耐震性能評価を行った上で、その再生利用に対する計画提案（図3）を行いました。



図1：山田家住宅の現状

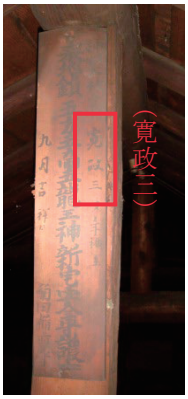


図2：棟札

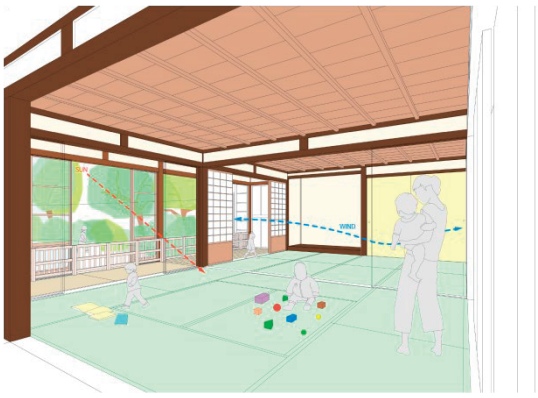
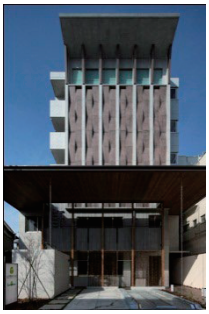


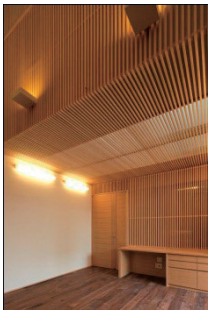
図3：再生計画

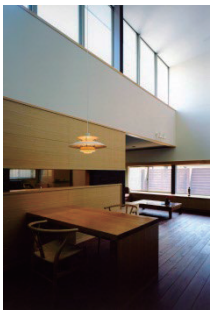
■ 地域の環境に寄り添う建築の設計

本研究室では、これまでに述べた地域における伝統的建造物や、これらをとりまく居住文化の維持・保全における研究の他、地域の気候や景観に寄り添う新たな建築の構築を目指し、各種建築に対する考察と、その設計・監理を行っています。

写真（左・中央）：ISビル　　（撮影：絹巻豊）
写真（右）　　：須磨の曲屋（撮影：絹巻豊）







■ 地域密着型工務店・住宅メーカー向け「住宅新商品」の開発

地域に根ざした住宅のあり方を考察し、地域密着型の新しい住宅商品開発・提案を行います。
また、こうした住宅を提供する工務店・住宅メーカーへ向けたデザイン提案も行っています。

＜共同研究等の状況＞

ある老舗工務店より、住宅の新商品開発に関する研究を受託し、実施しました。具体的には、当該工務店がこれまでに販売した住宅を様々な角度から詳細に分析し、地域のマーケティングに対するアンケートやヒアリング調査も行った上で、こうしたデータを基に、新商品として特徴のある、且つ、ニーズとコストのバランスを考慮したパッケージ住宅の計画を作成し、当該工務店の総合的なブランディングを行いました。